

スイッチが入るあの時間がたまらない



みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」

かわ い ひで あき
河合秀昭さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.202

取材中、何度も「恥ずかしい」と口にする照れ屋さん。「スイッチを切り替えて役に入り込めば、ミュージカルも仕事の営業も大丈夫です」と笑う河合秀昭さん。みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」のメンバーで、今年2月に上演された舞台で主役を務めました。Myuでは「ひできん」の愛称で親しまれている、水戸市にお住まいの河合さんにインタビューしました。

シャイなのに 目立ちたがり

もみんないい人。市民ミュージカル劇団にしては珍しく男性も多いので楽しいです」と嬉しそう。

静岡県藤枝市で生まれ育った河合さんが舞台に立つようになったのは、15年ほど前に市民ミュージカル体験募集のチラシを見たことがきっかけ。「やっぱりちよつと恥ずかしくて」と、本公演の出演は断ったものの、男性キャストが少ないこともあって事務局側からプッシュされ、

今年2月に上演した、Myuの大人たちだけで創る演劇「ボクの明日は30年後」で主役を務めた河合さん。「主役なんて恥ずかしいし不安だし(笑)でもMyuの仲間たちに諭されて、主役に選んでもらえることなんてなかなか無いので決意しました」と信条を語ってくれました。「冷凍睡眠に入った夫(河合さん)を30年も待たせてくれた妻みぼりん(吉田美穂さん)の演技に感情を揺さぶられました。でも舞台を降りると『じゃ〜ね〜』ってドライで(笑)」。

はあり得ないことがたくさん出てくるところが見どころ。僕もこういうファンタジックなミュージカルが大好きです。Myuは毎回初参加の人がいて、みんなと作品を創っていくのが楽しい」と教えてくれました。

「緊張で本番前はご飯が食べられませんが、舞台に出てしまえばスイッチが入って、楽しくて、あの時間がたまりません。シャイなのに目立ちたがり屋。ずっと役者が続けていきたい」と語る河合さんは、転勤がある会社に勤務。「Myuが楽しいので『しばらくMyuが楽しいので』しばらく茨城にいさせてください」と。Myuが、みの〜れが大切なホームだという気が持ちが伝わってきます。

転勤で茨城県に引っ越すことになり、市民ミュージカルを検索していたら、みの〜れ20歳記念ミュージカル「黄色い袋と魔法のトンネル」の募集を見つけたのがMyuとの出会い。「Myuはイチからオリジナルで創り込んでいくので面白いです。メンバー

入団3作目の作品となる今年10月公演の「わたしとおぼけのケーキ屋さん」で、河合さんはおぼけの役を演じます。「非日常の世界が展開されていて、普段の生活で

愛と友情の異世界ファンタジー「わたしとおぼけのケーキ屋さん」。ひでさんがどんなおぼけを演じるか楽しみです。ね。

入団3作目の作品となる今年10月公演の「わたしとおぼけのケーキ屋さん」で、河合さんはおぼけの役を演じます。「非日常の世界が展開されていて、普段の生活で

入団3作目の作品となる今年10月公演の「わたしとおぼけのケーキ屋さん」で、河合さんはおぼけの役を演じます。「非日常の世界が展開されていて、普段の生活で

愛と友情の異世界ファンタジー「わたしとおぼけのケーキ屋さん」。ひでさんがどんなおぼけを演じるか楽しみです。ね。

(藤田佐知子)